「大学時代，そして現在」

榎並　浩（教育・平成５年学部卒業，平成７年大学院修了・香川大学教育学部附属特別支援学校）

思えば三十数年前，小学校のときから野球を続けていたこともあり，「体育の教員になって，高校野球の指導者になりたい。」という希望をもち香川大学教育学部保健体育研究室に入学しました。入学してからの大学生活は，授業，部活動，アルバイトなどに明け暮れる毎日で，仲間とワイワイやりながら楽しく充実した日々を過ごしていたことが思い出されます。３年生になってからはゼミが始まり，山神眞一先生のもとで学ぶ機会をいただきました。山神先生には，学部，大学院と合わせて四年間お世話になり，学問のことだけでなく，人としての生き方や考え方など多くのことを学ばせていただき，今でも「人生の師」と仰いでおります。学ぶ場は大学内の研究室にとどまらず，夜の飲み屋で，ということも何度かありました（笑）。また，国内の学会はもちろんのこと，学生ではなかなか経験できないような国際学会にも同行させてもらいました。それもフランスとフィンランドの二度も同行させて頂き，フィンランドで行われた国際バイオメカニクス学会では発表をする機会も与えていただきました。とても貴重な体験でした。その経験もあり，一時は研究者への道を考えましたが，実際に子どもと関わることが好きだった私は，常に子どもと関わることができる教員という道を選択しました。

そんな私も，教員になって二十数年が過ぎ，現在は香川大学附属特別支援学校に勤務し特別支援教育に携り，毎日子どもたちと楽しく過ごしています。保健体育の教員を目指していた私が特別支援教育に携わるようになったきっかけは，大学生時代に参加した障がい児を対象とした療育キャンプでの一人の自閉症の男の子との出会いでした。それまで障がいのある子どもと接した経験がなく，何の知識もなかった私は，この男児に振り回されっぱなしでした。しかし，三日間行動を共にしているうちに，私という存在を認識してくれ，最終日に一言だけ「学生さん（ボランティアだった私たちは指導者の先生方からそう呼ばれていた）」と呼んでくれました。このときの何にも例えようのない喜びは私の中で忘れられないものとなりました。そのときの気持ちが今の仕事を選択する決め手の一つになりました。

振り返ってみますと，これまでいろいろな場面で，選択を迫られることがありました。その選択が正解かどうかは分かりませんし，もしかしたら遠回りをしているのかもしれません。でも今の自分があるのはそれら全ての経験が私の人生には必要であったし，いろんな人との出会いも私の財産になっていることは間違いありません。これから先もいろいろなことを選択する場面があると思いますが，その時その時に自分がベストだと思う方向に進んでいき，いろいろな人との出会いを大切にしていきたいと思います。